

**全教**  
**豊中教職員組合**  
**とよなか**  
 2022年9/12  
 No.632  
 〒560-0054  
 豊中市桜の町3-12-10 3F  
 TEL (06) 7161-4161  
 FAX (06) 7161-2511  
 WEBページ 検索：【全教豊中】

## どうなる？ 豊中の図書館

「りっぱな中央図書館ができる？」  
 「地域図書館がつぶされるって本当？」  
 「小さな図書館になるって本当？」

### すすんだ図書館行政

豊中には岡町図書館をはじめ、各地域に9図書館・2図書室があります。また、全市立学校に学校司書を配置して市立図書館と連携して図書館教育を行っています。

これらは、ねばり強い市民の運動の結果生まれました。豊中市の図書館は豊かで、だれもが歩いて行くことができる距離にあることを目指してきました。市内の公共施設の利用率は図書館がとびぬけています。親子や

高齢者の居場所としての役割も大きなものがあります。

### 中央図書館基本構想

豊中市は2021年に「豊中市(仮称)中央図書館基本構想」(以下、「構想」)を策定しました。新しく充実した図書館ができることは喜ばしいことです。

しかし、「構想」には「図書館の数を中央館と地域館(千里・庄内)、分館数館に集約する、分館は各500㎡程度を想定する」とあります。

この方向ですすめば、いくつ

かの図書館は閉館あるいは縮小されてしまうことになります。

### さらなる充実を求めて

今、豊中の図書館の充実を求めて、豊中図書館問題連絡会が「歩いていける地域の図書館の存続を求める」の署名に取り組んでいます。また、今週土曜日には市民によるタウンミーティングを行います。

#### 【要望項目】

・地域の図書館の廃止、大幅面積減を一方的にすすめるのは

やめてください。

・つどいの場である地域図書館をなくさないでください。  
 ・図書館本体の運営は直営を維持してください。

・図書館の命ともいうべき司書の大幅削減をやめてください。  
 ・市民との話し合いを続けてください。

ネット署名はQRコードから

○参照 豊中図書館問題

連絡会要望署名  
より



### 市民によるタウンミーティング

### どうなる？豊中の図書館

9月17日(土)

午後2時～4時半

場所 **すこやかプラザ**

内容 中川幾郎さん講演／豊中市による計画の進捗状況／市議会議員さんの意見／参加者による意見交流

参加費 無料 申し込み 不要

主催 **豊中の図書館問題連絡会**



# 原水爆禁止大会に

## 参加して (1)

久保田 百合 (一中)

### ☆はじめに

8月4日～6日まで、広島で「原水爆禁止世界大会」が開催された。コロナウイルスの影響で過去2年間はオンラインで、今年は3年ぶりに対面開催も可能となり、私は大教組派遣団の一員として初めてこの大会に参加した。事前の結団式では、原水協運動の目的や意義この間の情勢についての話があり、参加者の自己紹介や第五福竜丸の映像視聴などが行われた。参加者の半数が初参加で、20～30代の若い先生方も多かった。

### ☆世界大会に参加して

会場では、全国各地から様々

な団体(学生や労働組合、NPOなど)の方々が来ていた。核兵器禁止条約の前進に尽力している国の政府代表や「平和を求めるグループ」のゲストスピーカーからの発信などあった。「平和」を守るための様々な取り組みや現状の報告を聞くことで、共感したりもどかしさを感じたりもした。

核兵器禁止条約が2021年1月に発効され、批准国は66か国に増えているが、日本政府は条約を批准していないこと、締約国会議が2022年6月に「ウイーン宣言」として採択されたが日本はオブザーバー参加もせず、政府がめざすと言っている核兵器国と非核兵器国の橋渡しの役割を果たしていないなど、そのような事実や状況が失望や批判となっていた。世界で唯一の原爆による戦争被害国である日本が、核兵器反対の先頭に立ち、世界をリードすることが求められているのにもかかわらず:

この大会に参加するまでは、核兵器や原爆被害について、「危険だ」「今でも放射能による後遺症で苦しんでいる人がたくさんいる」とただ漠然と感じていたが、大会で様々な事実を見聞きし、核兵器のない平和な世界を希求して活動している多くの方々がいることを知った。そのうえで戦争のもたらす残酷さ、心が痛み、絶対に核兵器を持たない、作らない、持ち込ませないことが重要だと改めて認識した。

### ☆参加者の声から

ある女性が、「私たちのような苦しい思いをする人はこれ以上いらない。」と77年たった今でもその辛い日々について訴えていた。当時の集落や家族の写真を見せ、原爆が奪ったもの、それは日常の生活や将来の希望などである。奪われた幸せや生活を伝える重要性にも触れ、そしてさらに今また現実の核の脅威が迫っていることに強くNoと言いたい、一緒に立ち向かおうと話さ

れていた。

小学4年生の子どもは、「岸田内閣がやっていることは全然知りませんでした。非核三原則についてもまだ学校で習っていません。でも核兵器をもつことは危険だと思います。」と話していた。大変驚いた。日本社会で行われていることを知り、世界から問われていることを共に考えたい、という願いが感じられ私にとっても心を揺さぶられた。

【続く】

